

自ら学び、伝え合う子どもの育成を目指して

第4学年「藍っ子調査隊 藍畑と吉野川のつながりを調査しよう」の実践を通して

名西郡藍畑小学校 教諭 原 拓馬

1 はじめに

本校がある石井町は、吉野川の下流に位置し、田畑が広がる町である。藍畑は、石井町の中でも最も吉野川に近く、その被害とともに恩恵も大いに受けてきた。

児童は、2年生で行ったまち探検で、吉野川の氾濫の歴史を語る高地蔵や印石を見てきた。3年生の総合的な学習の時間には、藍商の武知家住宅を見学したり、地元の農家の方に話を聞いたりして、地域の様子について学習してきた。しかし、藍畑の人々の暮らしには吉野川が深く関わっているという考えにまでは至っていなかった。また、藍畑と吉野川の関わりを知るうえで中心となる藍の生産や洪水についても、過去のこととして捉え、吉野川を身近な存在として感じている児童は少なかった。

そこで、藍畑の昔や今の暮らしと吉野川の手がかりを探っていく活動を通して、先人たちが知恵と工夫で暴れ川の猛威に備え、川とともに暮らしを営んできたことに気付かせたい。そして、吉野川と“吉野川が育んだふるさと藍畑”への愛着をもつことができるようにしたいと考え、本研究に取り組んだ。

2 研究の内容

- (1) 主体的な学びにつながる課題との出合わせ方
- (2) 地域の人材や文化財を生かした学習活動の展開
- (3) 伝え合いながら学びを深める場の工夫
- (4) 効果的に伝えるための表現のあり方

3 活動の内容

(1) 学習課題との出会い

児童は、藍畑について知っていることを話し合う活動を通して、藍畑の生活や農業には、吉野川が関わっていることに気付いた。そして「吉野川のおかげで藍が有名だったことについて詳しく知りたい」、「他にはどのような関わりがあったのだろう」という思いをもった。そこで「藍っ子調査隊」を立ち上げ、藍畑と吉野川の関わりについて学習していくことにした。

(2) 地域との関わりを生かした学び

① ゲストティーチャーを招いて（「藍と洪水」について）

児童は、初めて知る藍畑の昔の姿について興味をもって聞いた。「日本三大暴れ川」の一つとして愛称がつけられていることや、藍屋敷のこと、現在の堤防は100年間破られていないことなど、印象に残ったことをワークシートにまとめ、交流し合った。その中で、田中家住宅の見学への意欲が高まった。

② 地域の藍屋敷を訪ねて（田中家住宅）

田中家住宅では、石垣やかやぶき屋根の役割について説明を聞いた。洪水に対する備えを実際に見ることで、児童は先人たちの知恵と工夫に驚いた。



【田中家住宅で建物の説明を聞く様子】

(3) 学びの発信へ

① テーマづくり

全体学習で学んだことの中から、児童はそれぞれが関心をもったことをもとにテーマを考えた。そして「藍が広まったわけ」「桑作りと野菜作り」「高地蔵や印石」「堤防の変化」「100年間破られていない堤防」「日本三大暴れ川の1つ」「フジグランの洪水」「田中家住宅」のグループに分かれた。

② コンセプトマップで整理

テーマに沿って、得た情報をカードに書き出した。次に、数多くあるカードの中から伝えたい内容の柱をグループで話し合っ決定し、それに必要な情報をコンセプトマップに整理した。「知っていること」「もっと知りたいこと」「知るための方法」等色分けしたカードに記入し、マップ上で貼ったり移動したり、また取捨選択したりしながら、発表内容の組み立てを整理した。

③ 学びを深める

整理していく中で、疑問や新たな課題が生まれた。そこで、以前ゲストティーチャーをお願いした方に『Zoom』を使って再び質問をした。また、タブレット端末を使用してインターネットで検索したり、取材や写真撮影に出かけたりと、各グループが目的をもって調べ学習に取り組んだ。繰り返し探究することにより学びを深めることができた。



【グループでコンセプトマップを作成する様子】



【高地蔵の写真を撮る様子】

(4) 発信

『Metamoji Classroom』を用いてのプレゼンテーションや紙芝居にまとめ、他学年の児童に伝える計画である。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 学びを深める場や手立ての工夫により、自分たちの課題が明確になり、主体的に取り組む意欲につながった。
- 地域の人材や文化財を生かして学習過程を構成することにより、藍畑のくらしは吉野川と深い関わりがあるという意識が生まれた。

(2) 課題

- 児童が継続的に意欲をもって取り組めるような課題との出会わせ方を工夫していく必要がある。

5 おわりに

今回の実践を通して伸ばしてきた進んで課題に取り組む姿勢を、学校生活全般において生かせるよう、これからも自ら学び、伝え合う子どもの育成を目指して取り組んでいきたい。そして、児童には、ふるさと藍畑への思いを大切に育みながら生活してほしい。